

熊本県立劇場季刊誌 ほわいえ
Quarterly magazine FOYER
2022 autumn

つながる、ひろがる、あつまる
ほわいえ

014

FOYER

Special feature

劇場のお仕事:設備管理

劇場に必要なもの
よい音楽、よい舞台、
そしてよい環境 **What's Facility Management?**

第64回熊本県芸術文化祭スペシャルステージ
ONE PIECE × 人形浄瑠璃 清和文楽
超 馴鹿船出冬桜 ちょっばあふなでのふゆざくら

明後日朝顔プロジェクト2022
in 熊本県立劇場

ダニエル・バレンボイム指揮
ベルリン国立歌劇場管弦楽団
(シュターツカペレ・ベルリン)

日常に、劇場を。



Life with a Theater.



熊本県立劇場

KUMAMOTO PREFECTURAL THEATER

【企画・発行】
公益財団法人 熊本県立劇場
熊本市中央区大江2-7-1 〒862-0971
www.kengeki.or.jp

【編集・制作・印刷】
株式会社 ジャム
熊本市中央区練兵町45早野ビル1階 〒860-0017
www.jam-cf.com

熊本県立劇場季刊誌 ほわいえ 2022 autumn 発行日:2022.9.20 ※掲載内容は8.31現在のものです。

What's Facility Management?

熊本県立劇場には、誰もが心から音楽や舞台を楽しめるよう「快適」な環境づくりのために施設の環境を維持・管理している仕事があります。舞台上にも、舞台裏にさえも現れない、設備管理の仕事です。県立劇場の地下の、さらに深い場所に広がる中央監視室を拠点に業務を行う、まさに縁の下の力持ち。その存在なくして、県立劇場の40年という歴史はな

音楽と舞台を心ゆくまで楽しむ空間である劇場のホール。ステージ上で練り広げられる心に迫るような音楽の調べや、ひとときも目が離せない物語。公演に夢中になれる環境として、そのホールが快適であることが求められます。求められる、というよりも、それが当然の条件といってもいいほど。ただ「快適」とひとことでもいっても、凍てつくような寒い日と、うだるような暑さの日では、外からやってきた観客が求める「快適」は違うはずです。その公演がオーケストラの演奏なのか、照明を多用する演出がある舞台か、それによってもホール内の熱気も変わってくるでしょう。また百人いれば百通り、感じる「快適」は違うはずです。

いつも快適であること
それが、あたりまえだということ

い、といっても過言ではありません。

設備管理の中心となる業務に、ホール、ホワイエ、通路、練習室、会議室、トイレなど、館内のあらゆる場所の空調管理があります。ホール内は、年間を通して室温24℃、湿度50%に保たれています。どんな条件でもその快適ラインを保つことを基本に、ホールに集う人たちの年齢層、公演の内容によって、中央監視室に備えられた館内のモニターで確認しながら、ホールに集う人たちの表情を見て、その時の、その場の状況を把握し、空調をコントロールします。少しでも不快な表情の人を見つけたら、0.1℃の単位で調節し、空調機をコントロールします。県立劇場の40年も

の歴史の中、24時間、365日欠かさずの空調管理の記録を残し、細やかな管理を行ってきました。その記録は、ひとつの財産のようなものです。目的はただひとつ。よい音楽、よい舞台、一期一会のこの瞬間を、快適に楽しんでもらうため。演奏者からのリクエストで、楽器に合わせて湿度の指定がある場合もあります。また吹奏楽や合唱ではホール内を冷やすぎず、ダンスや動きの激しい舞台では、少し冷やすようにコントロールするなど、微細な調整は設備職員の腕の見せ所でもあります。とはいえ、その姿は決して表に出ることはなく、館内が快適であることは、あたりまえのことなのです。

全館の空調を制御・管理する地下室。県立劇場の職員でも、ここに足を踏み入れたことがある人は数少ない



Special feature
劇場の仕事：設備管理

劇場に必要なもの
よい音楽、よい舞台、
そしてよい環境



上手:湿度	48RH	演劇棟-4Fホワイエ	26.3℃	演劇棟-4Fホワイエ	湿度
下手:湿度	45RH	演劇棟-4Fホワイエ	25.5℃	演劇棟-4Fホワイエ	湿度
湿度設定	50RH	AC-12 演劇棟-4F楽屋	AC-12	湿度設定	
上手:湿度	49RH	給気温度設定	24.0℃	第1楽屋	湿度設定
下手:湿度	47RH	第1楽屋	25.0℃	第4楽屋	湿度設定
給気温度	21.7℃	第4楽屋	23.3℃	第4楽屋	湿度設定
湿度設定	50RH	給気温度	24.4℃	第4楽屋	湿度設定
2F 後部上手	48RH	AC-13 エントランスホール	AC-13	湿度設定	
2F 後部下手	40RH	温度設定	25.0℃	エントランスホール	湿度設定
湿度設定	60RH	エントランスホール	27.4℃	エントランスホール	湿度設定
		湿度	26.2℃	エントランスホール	湿度設定
		湿度	26.2℃	エントランスホール	湿度設定
		AC-14 大会議室	AC-14	湿度設定	
		温度設定	24.2℃	湿度制御 (許可/禁止)	湿度設定
		大会議室	20.9℃	湿度設定	湿度設定
		大会議室	20.9℃	湿度設定	湿度設定
		大会議室	20.9℃	湿度設定	湿度設定

県立劇場内のすべての場所の温度と湿度を管理するモニター



**お客様から何も言葉がないことが
最上級の褒め「言葉」**

県立劇場が開館して40年。地下深くある中央監視室の責任者として勤務する松本浩志さんは、開館当時からホール内の快適な環境を見守り続けてきた唯一の現役スタッフです。発電機をはじめ、開館からずっと使用している機械や装置も多く、定期的な点検を重ね、必要に応じて整備を行っています。たとえば、開館当時からある巨大な発電機は、停電した際にホール内の照明をすべてまかなうことができるほどの出力を持った機械で、公演中に使用したのはわずか4回。40年の歴史の中、10年に1度の割合でしか使わないものですが、いつ、何が起きても、すぐに稼働

できるように、定期的に点検し、3カ月に1回は動作確認を行っています。何もないのがあたりまえ。何かあった時にも、すぐに対応できるように準備するのが設備管理の大きな役割でもあります。この道40年の松本さんは、機械や装置の音のちよとした変化も聞き逃さないほど。館内の「快適」にずっと向き合ってきました。コンサートホール、演劇ホールだけでなく、小さな練習室でも、快適であるために人の動き、人の表情に目を凝らしてきました。「大抵のことは、設備職員で修理できる」との松本さんの言葉にあるように、舞台上の装置や道具に不具合があった場合は、設備職員がすぐに駆けつけます。いつでも対応できるように、必要な修理道具を揃え、その道具のメンテナンスも常に行い、何が

中央監視室 責任者
松本 浩志
[まつもと ひろし]



どこにあるのかすぐにわかるよう、きちんと整理されています。小さな道具棚ひとつとっても準備が整い、美しく整頓されている様は、まさに職人の現場です。

コロナ禍は、舞台芸術に大きな影響を与えましたが、設備管理の仕事にも変化をもたらしました。温度、湿度に加えて、換気の方法にも配慮が必要となったのです。外気を10%取り入れる冷暖房によって、ホールだけでなく、ホワイエ、廊下、練習室、会議室のあらゆる場所の空気の入れ換えを行っています。公演開始の2時間前から換気をはじめ、通常のマニアルになり、ホール内は20分ですべての空気が入れ替わるようになっていきます。

設備管理の仕事は、「寒い、暑い」のクレームは寄せられることがあっても、「快適だったよ」と声をかけられることはほとんどありません。「快適」は意識しないところにあるもの。だからこそ「何も言われなかった」ということが、設備担当にとっては最上級の褒め言葉(言葉はありませんが)になるのです。県立劇場の職員でさえも減多に目にするのではない監視室内では、今日も県立劇場内を行き交う人たちの表情をうかがいながら、裏方中の裏方が活動しています。

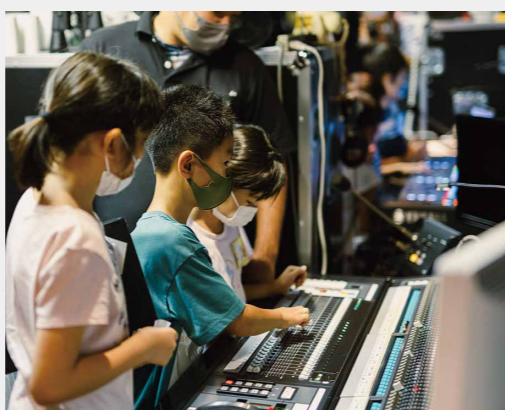
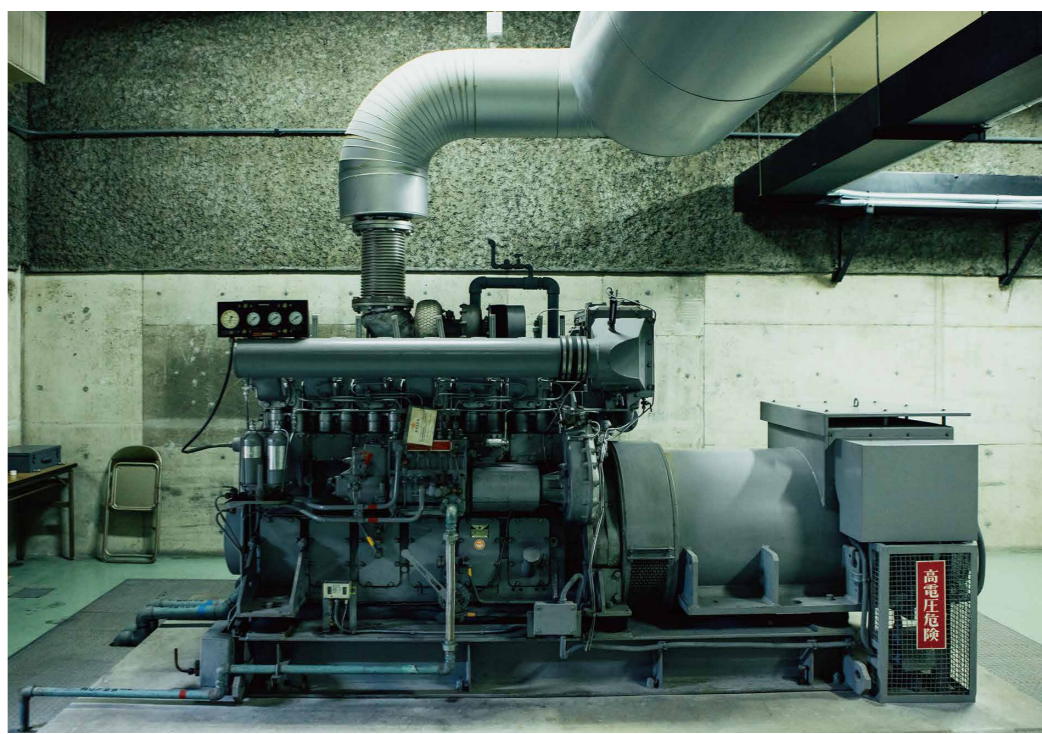
REPORT: 県劇バックステージツアー
舞台を支える、舞台裏の仕事ってどんなもの？
好奇心が刺激されるバックステージツアー

演奏会や演劇の舞台は、どのようにしてつくられるのか。どんな人が舞台の裏で働いているのか。光や音の仕組みはどんなものか。舞台をつくりだす、舞台裏の仕事や演出で使われるあんなことや、こんなこと。ふだんは見ることができないバックステージを見て回る「バックステージツアー」を企画・実施しています。毎年定期的に行っている「行くぜ！劇場探検隊」をはじめ、団体、学校単位で独自企画・実施についても受け付けています。お気軽にお問い合わせください。



道具一つひとつを大事にするのも設備管理の仕事。下の写真は、劇場の道具の中でも最も古い機器で、漏電していないか電気回路を測定するもの

40年前からどっしりと腰を据える発電機。2023年秋に引退が決まった



2022年12月に開催決定!

行くぜ! 劇場探検隊2022

ふだん見ることができない劇場の裏側を、チームに分かれて探検します。演劇仕立てのバックステージツアーを楽しめる内容です。

日程 2022年12月17日(土)
会場 熊本県立劇場演劇ホール
おとな 1,000円 こども 500円
対象 小学3年生から6年生の児童とその保護者
※要事前申込



県立劇場の正面玄関に、熊本城の武者返しをイメージして制作された朝顔棚



楽しそうに朝顔の観察をする園児たち

Highlight

明後日朝顔プロジェクト2022 in 熊本県立劇場

熊本県立劇場では、開館40周年記念事業の一環で、地域のつながりをつくる「明後日朝顔プロジェクト」に参加しています。

このプロジェクトは熊本市現代美術館館長である日比野克彦氏が新潟県十日町市助の集落の住民たちとともに、2003年にはじめたもので、朝顔を育て、その種が全国へと運ばれ、大きなネットワークになっています。県立劇場に全国9カ所から届いた種を、5月17日に熊本学園大学付属敬愛幼稚園の園児たちとともに植え、熊本デザイン専門学校、熊本の皆さんがオリジナルの朝顔棚を制作。6月の終わりには念願の花を咲かせました。朝顔の成長を楽しみにされている近所の方も多く、劇場スタッフ間でも朝顔の話題で会話が生まれ、いいコミュニケーションの種になっています。秋には種を収穫し、回収した蔓を利用して40周年を記念する作品の制作を検討中。今後の「明後日朝顔プロジェクトin熊本県立劇場」をどうぞお楽しみに！



©Holger Kettner

◎チケット販売中!

日時 2022年12月2日(金) / 開場 18:15、開演 19:00
会場 熊本県立劇場コンサートホール
【全席指定】
SS席 20,000円 S席 18,000円
A席 15,000円 B席 12,000円 C席 9,000円
※25歳以下の方、障がいのある方は3,000円引き
※未就学児の入場はご遠慮ください。
(有料託児サービスあり:要事前申込)

出演
指揮:ダニエル・バレンボイム
管弦楽:ベルリン国立歌劇場管弦楽団(シュターツカペレ・ベルリン)

プログラム
ブラームス/交響曲第3番 へ長調
ブラームス/交響曲第4番 ホ短調

Highlight

ダニエル・バレンボイム指揮 ベルリン国立歌劇場管弦楽団 (シュターツカペレ・ベルリン)

世界最古級にして最高のオーケストラと名高いシュターツカペレ・ベルリンの6年ぶりの来日公演が決定しました。巨匠バレンボイムと贈る円熟のブラームスは、まさにドイツ音楽の真骨頂と言っても過言ではありません。

熊本・東京・大阪の3都市のみとなる貴重な公演をお聞き逃しなく。



7月11日に開催された制作発表の様

©2010熊本県くまモン ©尾田栄一郎/集英社

熊本県出身の漫画家・尾田栄一郎氏が描く人気漫画『ONE PIECE』と連携した熊本地震からの復興プロジェクトの一環として、『ONE PIECE』を題材とする清和文楽(人形浄瑠璃)の新作を上演します。

熊本県重要無形文化財である「清和文楽」の価値の再発見、後継者育成などにつなげていくプロジェクトです。総合演出・音楽監修は『スーパードラゴンクエスト』の音楽を手がけた藤原道山氏。そして脚本・演出には同じく『スーパードラゴンクエスト』で脚本・演出を手がけた横内謙介氏をむかえます。人形遣いや大夫の他に、熊本県内を中心とした一般公募で選ばれた浄瑠璃隊、セリフ大夫、キッズダンサーなど、約200人が参加する大舞台となります。市民浄瑠璃隊は、ほとんどが舞台初心者。オーディションで選ばれた参加者に、8月中旬から末にかけて、演劇のプロが指導、ほぼ毎日稽古が行われました。11月の本番に向けて、急ピッチに準備が進められています。

原作:尾田栄一郎『ONE PIECE』(集英社「週刊少年ジャンプ」連載)
[スタッフ] 総合演出:藤原道山(尺八演奏家)
脚本・演出:横内謙介(劇作家・演出家 劇団「扉座」主宰)
音楽監修:藤原道山
作詞・浄瑠璃監修:鶴澤清介
人形浄瑠璃監修・人形衣装監修・人形振付:(公財)淡路人形協会 淡路人形座
人形・衣装デザイン・クリエイティブ:LINNET Co.,Ltd.
人形衣装デザイン:熊本デザイン専門学校
人形制作:甘利洋一郎(阿波木偶作家協会会長 人形師 人形洋)、寺田天志(3Dモデラー)他
衣装制作:熊本デザイン専門学校 他
題字:石井友美
映像:Hub.craft inc.
ONE PIECE熊本復興プロジェクトプロデューズ:フラッグス(株)、(株)Hot Pod
[協力] (公財)熊本県立劇場
[監修] 集英社「週刊少年ジャンプ」編集部

◎チケット販売中!

日時 2022年11月5日(土)、6日(日) / 開演 14:00
会場 熊本県立劇場演劇ホール
【全席指定】
S席 3,000円 A席 2,000円
※25歳以下の方、障がいのある方は半額
※未就学児の入場はご遠慮ください。
(有料託児サービスあり:要事前申込)

特設HP



山都町での稽古の様子



県劇自主事業案内
KENGEKI
KANGEKI



今年で40周年をむかえる
県立劇場の記念事業を
一部ご紹介いたします。

Highlight

第64回熊本県芸術文化祭スペシャルステージ ONE PIECE×人形浄瑠璃 清和文楽 超劇鹿船出冬桜ちよっぱあふなでのふゆざくら

熊本マンドリン協会

マンドリンの演奏で、
社会に役立つ取り組みを

1954年、熊本郵便局（現在の熊本中央郵便局）のマンドリンクラブとして誕生し、後に熊本県庁や九州産交のマンドリンクラブと合流し「熊本マンドリン協会」の名称に。その歴史は今年で68年を数えます。創立者の松井達喜さん（故人）は協会の運営面にも厳しく、ボールペン一本に至るまで管理をしっかりと行い、一方、演奏は心から楽しむというスタイル。それは今も受け継がれています。

マンドリンオーケストラは、マンドリン、マンドラ、マンドロンチェロ、ギター、コントラバスで編成され、日本では明治時代から親しまれているもの。常任指揮者である甲田弘志さんは編曲も担当。「定期演奏会」は、アマチュアですから技術的に演奏可能な範囲で、全体的にはあまり、なおかつお客さまに喜んでいただけるような編曲・企画を心がけています」と話します。また、ボランティア演奏活動にも力を入れています。創立当時から積極的に地域

のお祭りや施設で演奏し、中には50年以上訪問し演奏を続けている施設もあります。このボランティアの演奏活動には、ほとんどのメンバーが喜んで参加しています。

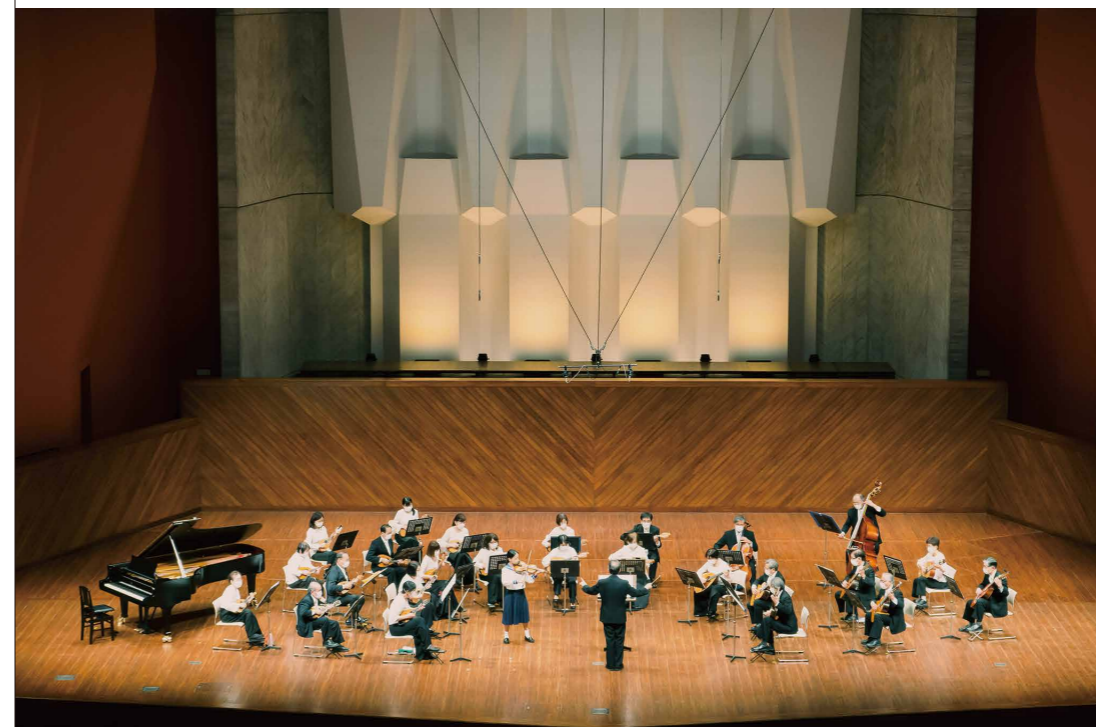
「練習は厳しく・本番は楽しく」をモットーに、毎週1回の練習を欠かすことなく、長い歴史を刻んできた熊本マンドリン協会。ボランティア演奏は、年間10回程度続けていきましたが、最近はコロナ禍で少なくなりました。そんな中「社会に少しでも貢献したい」という思いから「くまもと若い芽の作曲コンクール for Mandolin」を主催して、小中高生から広く作曲作品を募集。昨年は、金賞（3人）と特別賞（1人）入賞の学生さんたちと、その入賞作品と一緒に演奏したことで、メンバーにも刺激になったようです。今後も社会に役立つような企画に取り組んでいきたい、との思いを聞くことができました。



熊本マンドリン協会 常任指揮者
甲田 弘志
【こうだ ひろし】

写真は、第53回定期演奏会「くまもと若い芽の作曲コンクール入賞者と共演した公演。今年は10月21日（金）に、熊本出身の指揮者、奏者が集まって演奏する「地産地奏」をテーマに定期演奏会を県立劇場コンサートホールにて開催。

団員は随時募集中です。詳細についてはホームページをご覧ください。



熊本県立宇土高等学校 和太鼓部「鼓（つづみ）」



宇土高校の和太鼓部は「地域に愛される和太鼓部」をモットーに活動している

自主自立、
そして自由に
個性を活かす

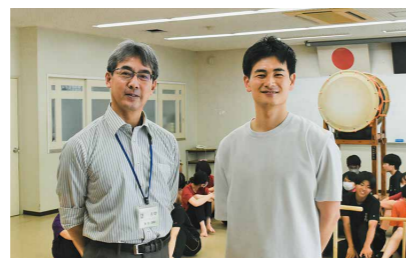
宇土市には雨乞い祈願や農耕儀礼として雨乞い大太鼓が伝承されており、2017年には国指定重要有形民俗文化財に指定されています。太鼓文化が根強く残る地域の高校として、和太鼓部が発足したのは2000年のこと。高校創立80周年の式典の際に、雨乞い大太鼓保存会から有志が技術を習い、大太鼓を披露したことがきっかけとなりました。部活動としての第一号の部員となったのが、現在部活動の外部コーチである高田大介さんです。宇土高校和太鼓部が大切に継承しているのが「自主自立」の精神。高校の部活といえば、とかく結果を出すことが目的となることが多い中、一緒に何かをつくりあげ、ともに成功体験を積むことに重きを置いていると語ります。その集大成となるのが、毎年6月に開催される3年生の引退記念演奏会です。宇土市民会館で開催される2時間の公演を、部員全員で企画・運営まで行うもの。舞台の構成は、自主自立にまかせ、そして自由に個性を活かしたもので、毎年盛り上がるという。

宇土の
太鼓文化を全国に
そして未来へ

宇土の雨乞い大太鼓は、江戸時代から明治にかけて各地区でつくり、保存修復を経て26基が宇土市大太鼓収蔵館に保存されています。部活動の一環で、この収蔵館にある大太鼓の貼り替えを生徒たちに見学してもらおうとしています。太鼓を通して地域文化への興味関心、そして人間的な成長に重きを置いた指導者の考えが垣間見えます。「宇土といえば、大太鼓」。そう認識してもらえよう、高校生の部活動が寄与する面も大きく、地域からの期待も大きいといえます。今年6月の引退記念演奏会で、部長に選出された2年生の松井春奈さんは、「この部活動には『ありがとう』がたくさんあります。地域から愛される部活動だからこそ、自分たちができることを全力でやっていきたい」と語ってくれました。その年の部員の「個性」に合わせたオリジナルの演奏を、その次の年の引退記念演奏会で披露することが、宇土高校の太鼓部の伝統。松井さん率いる部活動の現メンバーの、来年の公演が楽しみでもあります。



今年6月に行われた演奏会で部長に選ばれた2年生の松井春奈さん



写真右が創設部員の高田大介さん。左は現在顧問を務める廣田哲史先生



熊本県立図書館タイアップ企画
本の中にある劇場

熊本県立図書館と県立劇場のタイアップ企画として、2007年度から県立劇場の文化事業に関連する図書「〇〇を楽しむブックリスト」としてご紹介しています。作曲家や演奏家のこと、楽器にまつわる話や演劇の原作本。さらにはスポーツ、科学に関する本も！そしてこのコーナーでは、県立図書館職員おススメの一冊をご紹介します。ここでご紹介したおススメ本もブックリストの本も熊本県立図書館で読むことができますので、ぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。



出版/JTBパブリッシング

熊本県立図書館 情報支援課 主任主事
松永 有莉「つなぐゆり」

全国85劇場

ミニシアターのある街へ。

子どもの頃、映画は一大イベントでした。シネコンはまだ身近でなく、公民館での出張上映も稀だった田舎の小学生にとって、車で1時間かかる都会は別世界でしたし、新聞で上映時間を調べるのはワクワクするものでした。一定数の大人にとって、映画館は「エモい思い出を呼び起こすキープレイスではないでしょうか。」

この本によると、席数200以下の映画館をミニシアターと呼ぶそうです。90年代にブームとなったそうですが、紹介されているシアターはどれもレトロで个性的！アートシアターと呼ばれるのも納得のこだわりを感じます。副題に「映画の余韻を楽しむお散歩ガイド」とあるように、映画の前後に訪れたい場所が案内されているので、実際に1日を過ごした気分になれるのもまた一興。巻末に、熊本市のロココ空間と天草市の本渡第一映画も紹介されています。偶然どちらも訪問済みの私は、ツウになった気分でした。シアターと喫茶店で過ごす優雅な時間をぜひ皆さまも。

あなたの楽器見せてください

熊本大学フィルハーモニーオーケストラ
オーボエパート長
山田 宏友「やまだひろと」

オーボエ

私は、中学の吹奏楽部でオーボエに出会い、高校2年生の12月に初めての自分の楽器となる今の楽器を一目惚れして購入しました。この楽器を所持する前はソロが大嫌いなオーボエ奏者でしたが、この楽器と出会い、音楽や楽器を吹く楽しさを知ることができました。

オーボエでも使用者が少ないメーカーなため知らない人も多いでしょうが、フォサッティのFJ-77を使用しています。高音のきらびやかさや音程の安定感が素晴らしい、私の出した音をよく表現してくれます。リグータから分かれてきたメーカーでありフランス産となるこの楽器は、オーボエメーカーでは新参者となりますが大学からオーケストラを始めた自分と重なるところがあり、そういった点も気に入っています。

12月に県立劇場コンサートホールで開催する定期演奏会では、この楽器と共に最高のソロや音色を楽しみたいと思います。



山田 宏友
[やまだ ひろと]
熊本大学フィルハーモニーオーケストラ
オーボエパート長



オーボエ
Fossati FJ-77

県劇スタッフリレーコラム

事業グループ
前川 史「まえかわみ」

つながり

小さい頃、私はとても泣く子どもだった。小学校の入学式でも泣いたと思う。親は心配しただろうが、担任だった緒方先生の温かいサポートにより、元気な子どもになった。先生には私より少し年上の娘さんがいらっしゃるのですが、当時は半分母親のような気持ちで接してくれていたのではないと思う。先生とは年賀状のやり取りが続き、大人になってからはたまに先生を訪問してお喋りをする間柄になっていた。

数年前、先生の学校で子どもたちに話をする機会をいただいた。私は大学時代、法律を学ぶ中で教授と共にタイを10日間ほど訪問し、子どもの人身売買について現地の関係機関で話を聞いたことがある。平和な国で育ってきた私にとっては強烈な体験で、特に山岳民族の村で子どもたちと過ごした時間は私の価値観を大きく変えた。この話を聞いた緒方先生から「その貴重な経験を子どもたちの前で話してくれないか」と依

頼されたのだった。おそらく先生は、子どもたちにいろんな世界があることを知ってもらいたい思いに加え、一前での話をすることでもう一歩私が成長できるのでは、という気持ちもあったのではないと思う。いくつになっても先生は私の先生で、半なお母さんなのだと思います。

冒頭で書いた年の近い先生の娘さんと、この季刊誌ほわいえの2020年夏号で表紙を飾ったヴァイオリニストの緒方愛子さんである。愛子さんは現在広島交響楽団に所属されているが、県立劇場アウトリーチ事業の登録アーティストとしても2014年度から活躍されている。家が近く、たまたま同じ小学校だった愛子さん。年月を経て大人になった私たちは、偶然が重なり劇場で再会した。

県立劇場は12月に40周年を迎える。その記念企画のひとつで、愛子さんと私は一緒に仕事をすることになった。緒方先生と、そして愛子さんとの出会って25年。先生との変わらない関係も、愛子さんとの進化した関係もどちらも大切な宝物である。県劇のこの40年間も、たかさんの出会いを紡いできたに違いない。これからも県内文化の、そして人々のつながりの拠点となるような場所でありたいと願っている。

寄稿

学校法人 未来創造学園
熊本デザイン専門学校 教務部長
千田 浩一

明後日朝顔プロジェクト
「朝顔棚」の制作

2022年5月〜7月
熊本県立劇場

熊本県立劇場が開館40周年を迎える今回のお題は「朝顔棚」でした。

これまでも舞台装置や衣装のデザインなど数多くのプロジェクトに参加させて頂き、毎回新鮮味の強い内容に学生共々試行錯誤を繰り返してきましたが、そこには演者や劇場スタッフの皆さんが最後は支えてくれるという信頼関係があったように思います。しかし今回の主役は朝顔。記憶には小学生時代に育てた鉢植えがあるだけで、前川國男氏の建築の正面玄関にふさわしい景色を作るといった構想は、いつもの心地よいプレッシャーの域を超えていました。最後の最後まで朝顔が4mも蔓を伸ばすなど信じられず、伸びなくても良いデザイン、存在感の淡い構造を棚に求め、学生へのダメージ出しも強めに振れました。

7月、心配は杞憂となり、全ての蔓が4mを優に超え見事に花を咲かせました。植物相手に確実性に乏しいと気負っていた私は、「立派な朝顔に育てるぞ」という劇場スタッフの皆さんの意気を計算に入れていなかったようです。生の舞台芸術を支えている彼らの経験値の高さは40年積み重ねてきた伝統に裏打ちされているのでしよう。最後はやはり支えてくれました。さて、次のお題は何が来るのやら。楽しみでなりません。



千田先生(写真左)と建築・インテリアデザイン科の皆さん